

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人 心響会 タップチップス		公表日		2026年 4月 14日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	配置等を工夫して十分なスペースを確保している。	十分なスペースを活用して、質の高いサービスの提供を行ってきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	3	利用者の適正に合った職員を配置し、利用者の特性に合わせた、支援を行える体制を整えている。	加算要件を満たす人員配置を行っている。保育士や理学療法士など児童分野での経験と専門性を備えたスタッフ配置に努めている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	2	設備等については配慮して建築しており、設備に異常個所があった際は修理業者に頼み、迅速な対応を行っている。	利用者が過ごしやすい空間を保てるように努力している。利用しにくい場所などについては、補助金による増設なども検討している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	定期的な清掃や換気を行い、衛生面に配慮しながら快適に過ごせる環境づくりを行っている。	備品や玩具で子供たちが怪我無く安心して過ごせるようにその都度点検を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	0	パーティションで仕切りを作り、利用者が落ち着けるスペースや居室を用意している。	今後も必要に応じて居室や落ち着けるスペースを提供していく。また、補助金を活用してパーティションの設置などをしていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	2	毎朝の朝礼や会議を通して、改善に努めている。	会議での情報共有や職員用の連絡ツールを使い、意見交換を行いPDCAサイクルを心がけている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3	保護者の意向を汲み、必要な情報の共有を行っている。	アンケート表や連絡ノート保護者との面談で保護者の意向を確認し、会議等で共有を行い、業務改善に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	会議等で職員の意見を把握するとともに、業務上における必要事項の改善などを話し合い実行している。	会議等で課題を把握した際は、その都度意見を交換しながら、業務の見直しや様式の簡素化などの業務改善を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	7	外部評価は行っていないが、保護者等の要望には対応をしている。	外部評価については今後具体的に検討し業務改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	内部研修や外部研修に積極的に参加している。また、資格取得したり、資質の向上に努めている。	保育士試験や研修を積極的に職員が行っており、専門職の人材育成に努めている。また、様々な特性に合わせた研修に参加する機会を設けている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	HPなどにプログラムや支援方針等を掲載し、活動内容をブログに公表している。	プログラムや支援方針が固定化しないように工夫を行いながら今後も適切な支援を行っていく。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	1	アセスメントを通じて、ニーズや課題を把握し本人の適性を見ながら個別支援計画などを作成している。	定期的に課題やニーズを見直し、こどもや保護者のニーズに沿った支援を提供していきけるように努めていく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	2	子供の情報などを職員間で共有し、共通の理解をもって実際の支援を行っている。	会議などにおいて、子供の支援にとってどのような支援などがいいかをその都度話し合いながら業務を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2	支援計画の見直しが必要な際は会議等でその都度職員間で話し合いをしている。	個別支援記録から抽出した課題を支援記録に記載し、職員が把握しやすいように様式の整理を行った。課題に沿った支援を行える環境を整えていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	3	利用開始時にアセスメントを行い、ニーズや課題を把握しながら本人の特性を伸ばせるような支援の計画をたて支援を行っている。	支援日誌に個々の課題を設定し、日々の行動観察を行うなどして、本人の成長を促している。また、アセスメントを振り返りながら必要があれば、更新や見直しを行っている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	2	5領域の項目に合わせて、個別支援計画の見直しを計画的に行っている。	アセスメントの見直しやモニタリングを振り返りながら、個別支援計画の作成を計画的に行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	3	職員会議や日々の業務の中で取り組んでいる。	現在行っているプログラムを個々に合った質の高いプログラムを計画できるように検討中。	

18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	職員間で共有し話し合いをしている。	職員がそれぞれ考えた療育や活動を行っている。また、色々なバリエーションの行事を行っており、現在は様々な活動が行われている。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	2	連絡ツールや朝礼、会議等で情報の共有を行い、本人の状況に合わせた計画を作成している。	個別支援計画やモニタリングを行い、利用者にとって適している環境を与えられるよう日々の情報共有を行っている。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	3	職員間で情報共有を行い支援の内容や支援方法を確認している。	利用者の家庭環境や心理状態の変化などを会議等で話し合い、適切な支援を行えるよう確認をしている。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	6	その日の課題はその日の内に解決するようにしている。また、グループラインなどを活用し情報を共有している。	朝礼やホワイトボードを活用して課題などの確認を行っている。	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	2	気づいた点をスムーズに記録が出来るように様式などの改善を行っている。	日々の支援の日誌に個別支援の課題を表記して、職員が課題を把握しやすいように改善を行い日々の支援に役立てている。	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	0	6ヶ月に1回はモニタリングを計画的に行っている。	モニタリングの時期が分かりやすいように表でまとめ職員間で共有できるよう可視化を行った。状況に応じて変更検討していく。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	0	状況に応じて、児童発達支援管理責任者だけでなく、関わりのある専門職員が参加をしている。	児童発達管理責任者だけでなく、子供の状況を把握した、専門職の職員が担当者会議に参加をし、柔軟に対応している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	0	毎月、嘱託医の来所や各教育機関と連携を図り支援体制を整えている。	今後も関係機関と連携を図り情報共有を行いながら支援体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	3	保護者や関係機関の意向をもとに連携を図り情報を共有し、支援方針について共有を図っている。	移行に向けた、情報共有協力体制を整えている。相談支援専門員に連絡し事業所同士の連絡を取るようにしている。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	2	担当者会議などを行い、就学移行時などは情報共有を行いながら、相互理解に努めている。	送迎に行った際や日々の連絡調整を密に行いながら、利用時の状態の把握に努めた支援を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	0		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会なども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	5	児童発達支援センターなどが、地域に向けた研修会を実施した際には参加しており、会議等で、報告をして情報の共有を行っている。	児童発達支援センターなどとの連携深めて、今後の業務や支援に役立てていけるように努めて行く。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	6	保育園や幼稚園と併行通園できるよう通園日や利用時間を調整している。	地域の中で交流できる施設があるかなど、様々な機関や施設とのつながりを構築していけるよう努めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	1	送迎時や、必要に応じて保護者への連絡を行い状況の共有などを行っている。	個別支援計画からニーズの把握を行い、今後の課題や支援方法を検討し、職員間で周知していければ。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	5	困難を抱えている保護者に対しては、積極的に働きかけている。	利用者家族が参加出来る研修等があれば、よりよい関係づくりが出来るのでは。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	1	理解が不十分な場合は補足して説明する働きかけを行っている。	契約の際、重要事項の説明を行い支援内容等の説明を丁寧に行っている。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	2	こどもと保護者の意向を計画書に記載し、ニーズを踏まえた支援計画を作成している。	設定した目標に対して支援方針や支援内容の優先順位を踏まえ計画を作成している。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	1	児童発達支援計画を作成した際は保護者に説明を行い、支援内容の確認等を行っている。	支援内容などの工夫を行いながら、本人や保護者の課題やニーズに沿った支援を出来るように、ソーシャルワーク等の技術の向上に努める。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	2	個々や保護者の状況に合わせて相談を受けたり柔軟に対応している。	保育士の配置を強化していきおり、助言が必要な際などは職員間で話し合いを行い悩み等の相談に適切に応じていければ。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	7	年に1回、基幹支援センター主催のポッチャ大会などに参加をし、保護者にも応援として参加してもらうなどしている。	今後も保護者が参加できる行事などを検討して、保護者同士が連携していけるように努めていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10	0	相談体制のマニュアルなどを作成して、相談や申し入れがあった際は適切に対応できるような体制を整えている。	相談や申し入れがあった際は、即座に対応できるように日々の記録や連絡ノートなどを活用している。安心して利用できるように今後も子供や保護者に対して対応の体制などの周知を行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	2	パンフレットの更新やHPを使って、行事や療育の写真を公開し、保護者や子供に情報発信を行っている。	保護者や地域の人にHPの存在を広く認知してもらい、今後は専門職の情報なども発信していければ。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10	0	保管場所などや、取り扱いを会議等で周知している。	個人情報の取り扱いについては会議等で職員に周知を行い適切な対応を行っている。
	43	障音のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	1	個別の状況を把握し、支援に役立っている。また、送迎の際に保護者と会話をしたりして、状況に応じて対応している。	利用者、家族ともに意思疎通・情報交換を連絡ノートや電話対応で行っている。状況に応じた対応を行っている。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	5	地域との関係については、閉鎖性がないよう配慮を行っている。	事業所の行事に地域住民を招待することで開かれた事業運営とは考えていない。事業所から地域行事への参加を通して開かれた事業運営を目指したいと考えている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	0	現状に合ったマニュアル作成。	今後も職員や保護者に対して周知していく。また状況にあったマニュアル作成を行い適切に対応していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	1	年に2回の避難訓練を行っており、非常災害の発生に備えてBCP等を策定している。	災害時に備え連絡系統を整え、消防や警察との連携を図り、訓練を計画的に実施していく予定。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10	0	服薬の状況を確認して、投薬の確認を行い薬の管理を行っている。	利用者の服薬の状況を確認し、薬が変更になった際にはその都度状況の確認を行っている。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	1	主に保護者からの情報に対応している。ネームプレートを作成し、子供のアレルギーを有無を表示して対応している。	医師の指示書が必要な児童の場合は、囁託医へ指示書の依頼を行い指導や助言をうけていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練などを統括管理している。	安全計画を適切に活用するために毎年見直しを行っている。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10	0	安全計画に基づき、感染症や怪我などについて注意喚起や事業所の取り組んでいる。	保護者に周知を行う媒体などを検討しながら、今後も情報発信を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	0	ヒヤリハット発生時には速やかに報告書を作成して職員間で回覧し、情報の共有を行っている。	ヒヤリハットや事故報告などが発生した際には職員間で話し合い、見直しを検討し、周知徹底をしていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	1	研修会などに行った際は会議で報告をして、課題の検討や知識の共有を行っている。	勉強会で虐待の正しい知識や対応を学び、職員間での意見交換を通じて職員の意識向上を図っている。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	0	保護者への説明の上で、承諾書を取り支援を行っている。	契約の際、やむを得ず身体拘束を行うかについて必ず説明を行っている。